

The legend of OBASAN



CTIS  
Cancer Telephone Information Service

ここにいます

「がん電話情報センター」  
あなたの知るを助けます

ancer

(全国一律の電話料金でご利用いただけます。)  
(PHS、一部のIP電話からはご利用いただけません。)

おー こ こ に じょう ほう

**0570-055224**

受付時間：平日 12:00～17:00  
(土日・祝祭日・年末年始・夏期休業を除く)

自分またはたいせつな家族が「がん」になったとき、人は予想以上に混乱する。なぜ私が、なぜ私の家族が、そしてなぜこの時に、と茫然となる。その混乱に追い打ちをかけるように、医師はむずかしい治療の選択を迫る（よろこび感じる）。



NPO法人血液情報広場・つばさ理事長、  
がん電話情報センターCTIS相談主任、  
日本骨髓バンク（骨髓移植推進財団）常任理事

**橋本 明子**

12年におよぶ電話相談の基本姿勢は、当事者の「いま」をひたすら聞いて、そして「語りつくしてもらつて、答えと一緒に探す」とことにある。ところて、聴くというのは相手が話すわけだから、こちらにとつては単純作業に思われるかもしれない。しかし言葉を挟まずに当事者の状況を「聴き通す」のは、かなりの力が必要る。がん電話情報センターの相談員には、この「聴く」訓練が徹底される。

昔、私も患者の母だったし、その後は最愛の息子を喪って「心が折れた」当事者だった。しかしさすがに「昔」などと言える年月を経て、一山越えたようだ。20数年という時間と引き換えて、それなりの胆力が培われたようだ。この胆力でもって、今日も明日も「聴き通す」ことにしよう。一山越えたおばさんは、優しく強い聞き手でありたい。

## 「伝説のおばさん」のオススメ 2

# 優しく強い 聞き手でありたい！

橋本 明子

家族同士でも時には、頼りない、私ばかり責める、など感じることもある。そんな当事者に涙ながらに語られると、何とか良い回答を伝えたいとか、力強い相談相手でありたい、となりがちだ。だが、風船がこれまで以上ないほどに膨らんだ状態の心境の人には、言葉はいらない。

だから、電話の声にゆっくり耳を傾ける。そうですか、そうですよね、わかります、と「穏やかに真剣に」。そうやって、詰まつた想いを吐き出してもう。すると混乱がほぐれてくる。「ああ、ちょっと家族を追いでいたかもしない。私が焦って詰めていたかもしない。私が焦っていて」などと、落着けることもある。